本日は第 50 回海洋開発シンポジウム特別企画に当たり、海洋開発委員会の元の委員長として挨拶を申し述べます。私はシンガポール政府水資源局の温暖化に伴う沿岸防災強化のための専門家委員会に加わっており、本日は会議の初日に当たっていて、残念ながら海洋開発シンポジウム会場に伺うことができませんので、ビデオメッセージを差し上げます。

私が初めて海洋開発シンポジウムで発表させていただいたのは３８年前、第１２回シンポジウム、1987 年 6 月 19 日　土木学会講堂　でのことでした。当時は東海大学の酒匂敏次先生が委員長を務めておられました。それ以来、海洋開発シンポジウムではいくつもの発表をさせて頂きまして、たくさんの思い出があります。

私が委員長を務めました 2010 年 6 月から 2014 年 5 月の間に、最も印象に残っているのは東北地方の大津波への対応でした。2011 年３月 11 日に発生した東北地方太平洋沖地震津波による甚大な被害に伴い、専門家集団としての海洋開発委員会も社会の要請に即した形での変化と対応を迫られることになりました。土木学会を中心とする津波対応の施策の中で、海洋開発委員会も被災直後から緊急被害調査隊を派遣し、アメリカ土木学会調査隊の第一陣と共同調査を実施するなど、専門家集団としての役割を果たしました。アメリカ土木学会調査隊の第一陣はハワイ、オタワ、メリーランドなどから早稲田大学理工キャンパスの会議室に集結し、三沢空港を経由して、日本の土木学会海

洋開発委員会のメンバーとともに東北被災地での調査を行い、その結果を基に米国土木学会の設計基準の中に津波による荷重を始めて加えました。

日本の海洋工学、海洋防災、沿岸域管理への関心は世界中で非常に高く、あらゆる場面で意見を求められます。世界中が日本の海洋工学の水準の高さを認め、さらに沿岸災害の経験とそれへの対応に注目していますので皆様も世界の期待に応えるべく、ご留意頂ければと思います。

私は昨日からシンガポールに来ております。これから 1 週間にわたってシンガポール国水資源局の専門家会議で温暖化に対応する沿岸域防護策を話し合います。5 人の委員のうちで 3 人は我々と同じ分野の専門家で、デルフト工科大学のヨンクマン教授、アメリカ工兵隊に長くおられましたフロリダ大学のジェーン　スミス教授と私の 3 人です。この例に見られます様に環境変動に伴う海洋での工学的な対応策の立案は世界共通の課題で、各国で大きな関心があります。海洋開発シンポジウムにご出席の皆様にはこの分野で、日本からの専門家を多く輩出して下さいます様にお願い致します。海洋開発委員会はこの分野の専門家を育てるインキュベーションセンター、専門家育成の集団であり続ける必要があります。

本日は直接にお目にかかることができず、残念ですが、シンガポールから、皆様のますますのご活躍を祈ります。今後も私は海洋開発シンポジウムに出席致しますので、お目にかかりました際には、またよろしくお願い致します。